ペットの訪問看護・介護サービス「CARE PETS」

人と動物の「地域包括ケア」へ

動物看護師がペットの訪問看護・介護を行う、業界初のサービス「CARE PETS」。
仕掛人は、人間の介護福祉に約20年携わってきた藤田英明氏だ。
藤田氏は「人間と動物の地域包括ケアシステム」の実現に向けた構想を描く。

動物看護師がペットの訪問看護・介護を行う業界初のサービス「CARE PETS（ケアペッツ）」

CARE PETS（ケアペッツ）は、専属の動物看護師がユーザーの自宅を訪問し、ペットの看護・介護サービスや、日常のシッターサービスを提供するスタートアップ。犬や猫の長寿命化が進むなかで、飼い主の介護負担を軽減するサービスとして注目され、2016年8月の会社設立から急速に事業を成長させている。

人の介護から、ペットの介護へ

ケアペッツ代表取締役の藤田英明氏は、日本介護福祉グループを創業し、小規模デイサービス『茶話本舗』を瞬く間に業界有数の事業規模に成長させた人物。藤田氏は、自身のペット介護経験がケアペッツの発想に繋がったという。

「私は現在、犬を５匹、猫を４匹飼育しています。愛猫の１匹は今年29歳、人間に当てはめると165歳という超高齢で、徘徊や失禁などの認知症症状が出ています。家族同然かそれ以上の存在ですから１日でも長生きして欲しいのですが、食事や薬などでさまざまな配慮が必要で、世話は本当に大変。そんな日々が続くうちに、『自分以外にもペットの介護で困っている人は大勢いるのでは？』と思ったのです」

ペットの室内飼いが当たり前になり、医療技術もペットフードも進化するなかで、ペットの長寿命化が進んでいる。1983年に7.5歳だった犬の平均寿命は現在14.9歳に伸び、猫の平均寿命も15歳を超えた。犬・猫の高齢期は７歳頃からとされるが、犬の場合、高齢化率はなんと45％に達する。

「すでに世の中にはペットのシッターサービスが存在します。私自身も利用しましたが、ペットシッターの能力には非常にばらつきがあり、高齢化したペットの世話を任せることはできません。専門の介護・看護サービスが必要だと思いました」

2016年4月に、テストマーケティングとして個人事業でスタートしたところ、「想像以上のニーズに驚いた」という藤田氏。同年8月に株式会社化し、事業を本格化させた。

動物看護師が質の高いケアを提供

既存のシッティングサービスと差別化するため、藤田氏が着目したのが『動物看護師』の資格だ。動物看護師は、動物病院などで獣医師の診療・治療行為のサポートをする職種。2012年には動物看護師統一認定機構が発足、認定試験では専門学校や大学などでの単位取得が義務付けられるようになった。ケアペッツのサービススタッフは、全員が動物看護師の資格を取得済みだ。

藤田英明　ケアペッツ代表取締役

ケアペッツのサービススタッフは、全員が動物看護師の資格を保有。高齢化したペットに手厚い看護・介護ケアを行うほか、散歩など日常的なシッティングサービスにも対応

「動物看護師の就職先は動物病院が大半ですが、労働時間が不安定で低賃金な職場が多く、離職率は極めて高くなっています。ケアペッツは、動物看護師が安定収入を得て、活躍できる環境をつくることも目指しています」。動物病院と連携し、病院に所属する看護師の空き時間にケアペッツで働いてもらうという試みも始めている。

具体的なサービスは以下のとおり。原則として、７歳以上の犬猫のケアは『訪問看護・介護』コースで、料金は１時間3,500円。６歳以下は『ペットシッター』コースとなり、料金は同2,500円。両コースとも、サービス利用前に自宅でカウンセリングを行い、生活環境の確認・提案や、食事・トイレ・散歩の補助がどの程度必要かといったカルテを作成する。スタッフは訪問時にウェアラブルカメラを装着し、すべての行動を記録。早朝夜間や休日のサービス利用も可能にしている。

藤田氏がサービスを開始して驚いたのは、高齢のペットを高齢の飼い主が世話をする『老老介護』の割合が非常に高いということ。「利用者の60％以上が老老介護です。自分の生活を犠牲にしながらペットの看護・介護をする方は多く、看護・介護に疲れ果ててやむなくペットを手放すケースも増えています」

利用者の大半は多頭飼い。犬と猫の利用率はちょうど半々だという。「私は当初、外出や旅行時のスポット利用が多いと想定していました。ところが蓋を開けてみれば、週４日から７日利用する方がほとんどを占めています。例えば、飼い主が高齢のため犬の散歩を毎日してほしいという要望や、独身会社員のため平日夕方に猫の給餌とトイレ掃除をしてほしいといった要望があります」。こうしたヘビーユーザーのために、月30時間または60時間まで使い放題の定額パックコースも創設した。

他にも、ペットの緊急事態に24時間365日動物看護師が駆けつけ、救急処置や病院への搬送を行う『ペットの救急車』や、ペット向けのダイエットプランやリハビリプランも提供、好評を博している。

ペットの「老老介護」を解決

ケアペッツは都内２カ所で直営店を運営。フランチャイズ展開も始めており、港区南青山と群馬県高崎市でFC店が稼働済みだ。「FCは非常に反応が良く、現在は関西を含め12店舗ほど開設を予定しています。ドッグランやトリミングサロンの経営者のほか、高齢者の介護事業に携わる企業もいます。市場は非常に大きいと手応えを感じています」

藤田氏は『動物の地域包括ケアシステム』の実現を目指し、さまざまな新規事業にも取り組むという。地域包括ケアシステムとは、高齢者がたとえ要介護状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を地域一体で提供する取り組みだが、これを人だけでなく動物でも構築したいと藤田氏は考えている。

「ケアペッツの提供する訪問看護・介護に加えて、ペットの在宅医療の仕組みも必要でしょう。飼い主に入院や高齢者施設入所が必要になっても、ペットと離れ離れにならないで済む仕組み、例えばペット共生型サービス付き高齢者向け住宅や、ペット同伴入院可の病院の開発にも取り組んでいます。ペット保険会社と組み、ペット介護保険商品の開発も進めています」。ペットの老々介護問題を解決し、飼い主とペットのQOLを高めるために、藤田氏はさまざまな事業者とも連携を進めていく。 J